

JR 美 祢 線 災 害 復 旧 対 策 調 査 特 別 委 員 会

1 日 時 令和 7 年 3 月 13 日 (木曜日)

午後 3 時 40 分～午後 3 時 57 分

2 場 所 委員会室

3 出席委員 村 田 弘 司 委 員 長 石 井 和 幸 副委員長
竹 岡 昌 治 委 員 山 中 佳 子 委 員
三 好 睦 子 委 員 岡 山 隆 委 員
秋 枝 秀 稔 委 員 杉 山 武 志 委 員
戎 屋 昭 彦 委 員 藤 井 敏 通 委 員
末 永 義 美 委 員 山 下 安 憲 委 員
井 上 敬 委 員 竹 下 駿 委 員
三 善 庸 平 委 員

4 欠席委員 な し

5 委員外出席議員

荒 山 光 広 議 長

6 出席した事務局職員

岡 崎 基 代 議会事務局長 石 田 淳 司 議会事務局議事調査班長

寺 埜 真 輔 議会事務局庶務班長

7 説明のため出席した者の職氏名

な し

8 会議の次第は次のとおりである。

午後 3 時40分開会

○委員長（村田弘司君） ただいまより、JR美祢線災害復旧等対策調査特別委員会を開会をいたします。

議長、報告事項等ありましたらお願いします。

○議長（荒山光広君） 特にございませんが、よろしくお願いします。

○委員長（村田弘司君） それでは、調査事項に入ります。

これまでの特別委員会での協議を踏まえ、JR美祢線復旧に関連する要望について、要望のこの案をお示しをしています。読み上げて、説明に代えたいというふうに思います。私のほうで読まさせていただきます。

JR美祢線復旧に関連する要望について（案）、令和5年6月末からの豪雨の影響により、厚狭川に架かる橋脚が流出するなどの甚大な被害を受けたJR美祢線は、被災から今日まで全線運休を余儀なくされ、美祢市議会では、令和5年9月にJR美祢線災害復旧対策調査特別委員会を設置し、市民目線から復旧に向けた調査や研究を行ってまいりました。

全線開通から100周年を迎えたJR美祢線は、本市で採掘された無煙炭の輸送手段として建設され、我が国の経済発展に大きく貢献しました。現在は、通学を中心とする市民の日常生活を支える生活路線としての役割を果たすとともに、山陽新幹線と接続する二次交通として、山陽と山陰を結ぶ観光利用や地域間の交流の促進を図る重要な路線であります。

今回の災害を踏まえ、山口県は、防災・減災対策の観点から、抜本的な厚狭川の河川改修、これは美祢区間でございますけれども、令和7年度から10年間計画で行う予定となっています。

西日本旅客鉄道株式会社におかれましては、被災直後から代行バスを継続して運行いただいているところですが、被災から早2年が経過することを鑑み、復旧モードの如何によらず、自治体の費用負担や市民の利便性を念頭に具体的な議論が加速するよう、次の事項に関し特段の御配慮を賜りますよう要望いたします。

1、復旧費用などの削減、定時性や速達性、駅間輸送といったJR美祢線の本来機能の回復に要する費用については、あくまでも被災からの復旧であることを踏まえ、公共交通事業者である貴社の責任を再確認いただきたい。また、復旧及び運行に係る経費については、将来にわたって大きな負担とならぬよう最大限の削減に向けて

努められたい。

2、地域が一体となったまちづくりへの協力、本市では立地適正化計画を策定し、令和7年度から中心市街地再編成に取り組むところである。公共交通の拠点である「駅」やその周辺の一体的な再整備による利便性の向上について、復旧が地方創生の新たなシンボルとなるよう持続可能な「まちづくり」の観点から、特段の配慮とともに、本市と協働・連携して取り組んでいただきたい。

令和7年3月の日付が入ります。

西日本旅客鉄道株式会社、中国統括本部広島支社長、広岡研二様、こういうことでございます。

この、現在言わせていただきました要望案について、質疑、意見はありませんか。

○委員長（村田弘司君） 三好睦子委員。

○委員（三好睦子君） 1番の復旧費用などの削減のところ、これをずっと読んでみましたら、自社の責任を再確認いただきたい。その次に、また復旧及び運行に係る経費については、将来にわたって大きな負担にならぬようっていうけど、主語が貴社の負担が大きくならんようにっていうんじゃないくて、美祢市の負担が大きくならんようにっていう要望と思うんですけど。

○委員長（村田弘司君） そうですね。（発言する者あり）

○委員（三好睦子君） けど、ここに美祢市を直接出さんでも大丈夫ですかね。

○委員長（村田弘司君） この文章なら大丈夫です。

○委員（三好睦子君） それと宛名があるんですけど、広岡研二様ってありますけど、ここは委員長の名前、議長名で、特別委員会の委員長さんの名前なし。

○委員長（村田弘司君） いや、私の名前でしょう。私は今これ特別委員会でやりますから。これは今度、本会議でもしこれが決まったということであれば、それは本会議で報告します。それを受けてから、それはもう議長がこれを。

○委員（三好睦子君） 頭とかも。

○委員長（村田弘司君） 今は特別委員会での話です。いいですか、三好委員。ほかにありますか。山中委員。

○委員（山中佳子君） 2番の下から4行目の駅やその周辺の一体的な再整備によりってなってるんですけど、これ、美祢駅にしなくてもいいですか。

○委員長（村田弘司君） いいです。

○委員（山中佳子君） 今回、中心市街地の再編というのは、美祢駅の近くですよ。

○委員長（村田弘司君） これは中心市街地ですけども、今度の5か年計画は、執行部の説明がありました。並行して地域拠点、美祢駅を中心としたことやるけれども、いろんなところを含めて、そして、なおかつ今回は美祢線と関連してますから、それぞれの駅周辺も関連するということで、あえて駅とかえてます。

○委員（山中佳子君） 分かりました。

○委員長（村田弘司君） 秋枝委員。

○委員（秋枝秀稔君） 私思ったんですけど、1番の下側から2行目、大きな負担とならぬようにという言葉がですね、大きなのをのけたらどうですか。少々の負担ならしますよという言い方になるけえ、負担とならぬよう（聞き取り不可）

○委員長（村田弘司君） これは、いずれにしても執行部から説明を受けましたように、配分あるんですよ。我々自治体もそれなりの責任の所在はありますから、だから今度はJR、それから県、そして我々基礎自治体それぞれにとっても大きな負担になるから、それが圧縮されて、なおかつ我々はそのあとまたいろんな要望を言っていきます。これはこういう形が一番いいと思います。

○委員（秋枝秀稔君） ええですか、大きなのをのけたほうがええような気がする。

○委員長（村田弘司君） ほかにありませんか。いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（村田弘司君） それでは、お諮りをいたします。この要望案をもって議長へ提出することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員（竹岡昌治君） 議長に提出……。

○委員長（村田弘司君） 委員会として議長に提出です。異議なしと認めます。

それでは、本要望案をもって、本会議で委員長報告を行い議長へ提出することといたします。

次に、本特別委員会の取扱いについて協議したいと思います。竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） これ参考までなんですが、杉山委員がですね、実は昨日私も走ってみたけど、最初のメーター取るときが間違っちゃったから、これ杉山委員がちゃんと熊の倉から山中線走って3.6キロ、それから316走って2.89キロ、せっかく

行っちゃってやから、書いちゃってやから、杉山委員、何か話があれば。

○委員長（村田弘司君） 杉山委員。

○委員（杉山武志君） 以前ですね、竹岡委員のほうから資料が出されたんですが、それについての詳細の説明用に、図面に、地図に数字の落とし込みや何かができましたんで、御説明させていただければと思います。

地図上ですね——今配信しましたけど。地図上の水色の線ですね、これが今JRが提示しております4.1キロのバス専用路線なんですけど、先般、私たちがお話しさせていただいたのがこの赤い線、熊野倉線っていう県道になるんですけど、これを通ったら工事費の削減ですとか、山中地区の方々の利便性が高まるといったこともありまして提言させていただきました。

で、青色は、JRが提示しているのが4.1キロですよとなっております。赤色の線は、実装したら7.5キロ、で、そのうち整備が必要かなというところが3.6キロ、JRが4.1キロ、橋梁も含めて全部整備し変えるよりはですね、距離も短いですし、道幅を少し拡張する部分があるだけで、すごく経費的に安く上がります。

メリットとしましては、施工費の大幅削減、それから山中地区の方が厚保の公民館に行ったりとかいろいろされるのに、公共交通の整備ですとか、利便性が非常に高くなるというメリット。

それと、橋梁の整備が不要というそういったところからですね、こういうふうなことをJRに提言すれば山中地区の方も利便性が高まるし、工事費もすごく抑えられて数十億差が出ると思いますんで、市の負担も減るのではなかろうかという思いで提言させていただいております。

ちょっと実装して距離なんかが全部落とし込みましたんで、先般の補足の図面として、ちょっと皆さんに説明させていただきました。

○委員長（村田弘司君） いいですね。せっかく行かれたんでね、これ参考になります。

それでは、本題に戻りたいと思います。

先ほど申し上げた本委員会の取扱いについて協議をしたいと思います。

JR美祢線については、これから復旧に向けて、より具体的な協議に入っていく見込みです。

先日の特別委員会で、委員から意見もあったところですが、災害からの復旧に関

する調査はここで終了し、このような目的は一応終了したということで、今後を見据え、中心市街地再編成やJR美祢線の復旧と連動したまちづくりについて調査をする場を設けることを申し送りとしてはどうかというふうに思います。

我々、この特別委員会がこれから先ですね、何らかの形で、今杉山委員からも説明あったようなことも含めて申し送りをして、その後に要望等を行っていくということでしたらいいんじゃないかというふうに思います。

この件について、委員の皆さんの御意見をお願いいたします。どうですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（村田弘司君） 別に反対意見がないということは、一応この本特別委員会の本来的な任務は一応終了したと。

ですから、発展的に新たなそういうふうな組織化、何て言いますか、私の口から言えませんが、そういうところに持ち込んで、もっと大きな枠でJRなり県内と協議をして、本市のためになるように、美祢市議会として働きかけていくという形でいいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（村田弘司君） 分かりました。それでは、本日をもって本特別委員会の調査事項を終了することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（村田弘司君） 異議なしと認めます。それでは、本日をもって本特別委員会の調査を終了することとし、本会議にて審査終了の委員長報告を行うことといたします。

その他委員の皆さん方向かありましたら発言をお願いします。竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 委員長のほうから、私のほうからは言いにくいですが、おっしゃったんですが、新たな特別委員会を設置するというので、議長のほうからちょっとお話しいただければなあと。

万が一出なかったら、私ども動議をちょっと出したいと思ってたんで、その辺をちょっと明確に。委員長が言えなかったら、議長のほうからお話を伺えればと思っています。よろしくお願いします。

○議長（荒山光広君） このJRの特別委員会は発災直後からですね、いろいろと慎重に調査研究をしていただいて、今回、JRに対する報告書までこぎ着けていただきま

した。本当、委員長、お疲れさまでした。

今からJRの復興に――復旧に関しては、今度5月にJRの利用者協議会の利用促進協議会の総会があって、そこで、部会の結果が発表されて、その後、次の段階、具体的な段階に入っていくんだらうと思います。そうしたタイミングで、今、美祢駅周辺の開発の計画も多うございます。

そういったことで、もう5か年計画で今から動きますけども、そこに議会の意見というかそれを反映するために新たに特別委員会を設けて、しっかりとまた調査研究をしていただけたらというふうに思います。

もちろんその中には、JRの駅等も関連してきますので、この特別委員会の中の趣旨の一部も含めてですね、新たなまちづくりへの提言ちゅうか、その辺も含めた特別委員会を設置していただけたらというふうに思ってます。

また、趣旨等についてはですね、今から協議していただいて、この会期中に、3月定例会の会期中に設置できればというふうに思いますので、それぞれまた皆さんの御意見をお伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

○委員長（村田弘司君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 御意見をということになると動議出さんにやあいけんようになるからね。

議長から委員長報告を受けて出していただけないんですか。その辺をちょっとはつきり言ってください。

○委員長（村田弘司君） 議長。

○議長（荒山光広君） タイミング的には、最終日に今の意見書、要望書の決議をして、その後に新たな特別委員会を設置をいたします。

○委員長（村田弘司君） よろしいですか。

ということで、今議長から説明がありましたので、皆さん、よろしく願いたいと思います。ほかに何かありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（村田弘司君） ないようでしたら、これにて本日の特別委員会を閉会いたします。お疲れでした。どうもありがとうございました。

午後3時57分開会

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

令和7年3月13日

JR美祢線災害復旧対策調査特別委員長